



夙川学院短期大学 2017年度（後期）

通学課程・**幼稚園教諭免許状**取得特例制度募集要項

認定子ども園法改正に伴う幼稚園教諭免許状および保育士資格取得の特例制度について

認定子ども園法改正に伴い創設された新たな「幼保連携型認定子ども園」の職員である「保育教諭」については、「幼稚園教諭免許状」と「保育士資格」の両方の免許・資格を有することが原則となります。

認定子ども園法改正に伴い、施行後5年間の経過措置期間に、保育所または幼稚園における勤務経験（3年以上かつ4320時間以上）を有することにより、もう一方の免許・資格取得に必要な単位数等を軽減する特例制度が設けられました。

特例制度に対応する保育士資格を有する者が幼稚園教諭免許状取得申請のために、制度で定められた最低単位数である8単位の講座を開講します。

※本特例制度についての詳細は、文部科学省または厚生労働省のホームページ等で、必ずご自身でご確認ください。

<受講について>

1. 受講資格

保育士資格を有する者が、実務経験3年以上かつ勤務時間の合計が4320時間以上の場合に限る。

【注意】

申し込み時に、保育士証の写しと最終学歴の証明書(卒業証明書)を提出していただきます。

実務経験（3年以上かつ4320時間以上）の充足については、受講申し込み時に証明書を提出する必要はありませんが、ご自身で勤務施設に必ずご確認ください。お申し込みください。※本学では、実務経験に関するお問い合わせにはお答えできません。

2. 募集定員 30名（最小催行人数 10名）

3. 受講申し込み

本学のホームページより申し込み※インターネット環境がない場合は裏面の連絡先までお問い合わせください。

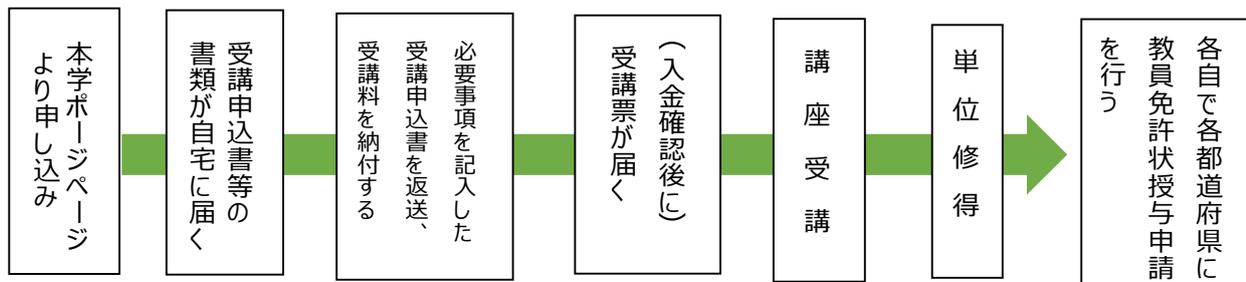
4. 申込期間（定員になり次第締め切らせていただきます。）

【後期】7月10日(月)～8月31日(木)

5. 受講可否連絡同封書類

申し込み書類名		記入方法
1	受講登録書	ペンまたはボールペンで記入してください 写真3cm×4cm（裏面に氏名記入）を1枚用意し、受講登録書へ貼付して下さい。
2	保育士証の写し	免許状に記載の氏名と現在の氏名が異なる方は、戸籍抄本も一緒に提出してください。
3	最終学歴の証明書	卒業証明書

<特例制度を利用した免許・資格取得の概要>



7/10 受付開始
8/31 締切

9月上旬頃発送

9/13 締切

9/22 発送

10月から3月まで
週1回(指定日)の
通学

※合格した場合

申込者が10名に満たない場合は未開講の旨の通知をお送りします。

<開講科目>

本学で開講する特例制度の指定科目は下記の通りです。特例制度で定められている6科目8単位の開講です。

試験免除科目	養成施設における科目	本学開講科目名	単位数 講義回数	開講日程
教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	教職総論 (岡崎 公典)	2 (15回)	10/7(1.2限)、10/28、11/18(3.4限)、 12/2(1.2限)、12/9、12/16、1/14(3.4限) 1/20(2限)
	教員の職務内容(研修、服務および身分の保障等を含む。)			
教育の基礎理論に関する科目	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育原理 (齋藤 尚志)	2 (15回)	10/15、10/28、11/18、11/25(1.2限)、 12/2(3.4限)、12/16、1/14(1.2限)、 1/20(1限)
教育課程及び指導法に関する科目 ※	教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論 (園田 雪恵) (林 幹士)	1 (8回)	10/7、10/15、11/25(3.4限)、12/9(1.2限)
	保育内容の指導法	保育内容総論 (園田 雪恵)	1 (8回)	1/27、2/3、2/17、3/3 (全て 3.4限)
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論 (林 幹士)	1 (8回)	1/27、2/3(1.2限)、2/24、3/10 (3.4限)
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論及び方法 (番匠 明美)	1 (8回)	2/17、2/24、3/3、3/10 (全て 1.2限)

<授業時間>

1限目 9:20~10:50 2限目 11:00~12:30 昼休み 12:30~13:20
3限目 13:20~14:50 4限目 15:00~16:30

<受講料>

項目	金額(円)
受講料(1単位)	9,500円

全科目受講の場合は76,000円となります。

<免許状の申請について>

特例制度に定める必要科目・単位を修得後、各自で各都道府県教育委員会に教員免許状授与申請を行ってください。詳細な手続き方法については、必ず各都道府県教育委員会にご自身でご確認ください。

※現在、保育士として勤務をされている方→勤務都道府県 勤務されていない方→居住都道府県



JR「三ノ宮」駅、阪急・阪神「神戸三宮」駅、
神戸市営地下鉄「三宮」からポートライナーで約9分
「みなとじま(キャンパス前)」駅下車、徒歩約10分

〒650-0045

兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番11

担当：幼保特例講座 担当

TEL: (078) 940-1154 (代表)

e-mail: c-gakumu@shukugawa.ac.jp

Web 申し込み: <http://www.shukugawa-c.ac.jp>

科 目 名 : 教職総論
単 位 (授 業 形 態) : 2 単 位 (講 義)
担 当 者 : 岡 崎 公 典

授業の到達目標

教師になるためには教職に関する知識や技能が必要である。同時に、教師の仕事とはどのようなものか、自分はほんとうに教師に向いているのだろうか、など授業での学びを通して考え、職業として教師を選択するかどうかを熟考しなければならない。この授業では、教職の意義や教師の役割、職務内容等について学び、自分が、教師の仕事に情熱をもって取り組むことができるかどうかを多角的に考える機会を提供したい。

目標：教師の「仕事」の内容とそれを支えている仕組み、教師に求められているものなどについて理解を深める。

授業の概要

1. 各回のテーマを中心に講義を行う。
2. 必要に応じて映像を用いる。

全体の授業計画・内容

1. はじめに—教師の「仕事」を学ぶ— (第1回)
2. 理想的教師像—「魅力ある教師」— (第2回～第3回)
 - 1) ドラマ教師の条件
 - 2) 教師の「魅力」とは？
3. 教師は、今—何が求められているのか？— (第4回～第7回)
 - 1) いつの時代も教員に求められる資質・能力
 - 2) 今後特に教員に求められる資質・能力
4. 育つ教師—教師の職能成長— (第8回～第10回)
 - 1) 職場の〈内〉で学ぶ教師
 - 2) 職場の〈外〉で学ぶ教師
5. 教師の仕事を支えている仕組み (第11回～第13回)
 - 1) 教員の養成・採用・研修
 - 2) 教員の法的地位と身分
 - 3) 学校の管理・運営
6. これからの「学校」 これからの「教師」 (第14回)
7. まとめ (第15回)

準備学習の内容

予習のあり方：新聞や書籍などで教育に関する時事問題に関心をもっておく。

復習のあり方：授業内容についての疑問点を整理し、次回質問できるようにしておく。

成績評価

筆記試験（50%）、授業内レポート（40%）、受講態度（10%）

テキスト

とくに使用せず、授業時に資料を配付する。

参考文献

授業時に、適宜紹介する。

科 目 名 : 教育原理
単 位 (授 業 形 態) : 2 単 位 (講 義)
担 当 者 : 齋 藤 尚 志

授業の到達目標

教育とは、学習とは、いったいどのような営みなのでしょう。この授業では、教育の本質や目的などについて、基本的な知識や概念を学んでいきます。まず、教育の研究や実践にとって不可欠だと考えられる概念や議論を、できるだけ分かりやすく紹介・解説します。次に、事例をもとに、子どもの成長、おとなー子ども関係（教師ー子ども関係）などについて考えていくことによって、教育や学習という営みを全体として了解することを目指します。

授業の概要

1. レジユメを用いながら、各回のテーマを中心に講義を行う。
2. 必要に応じて映像を用いる。

全体の授業計画・内容

- | | | |
|------------------|-------------------------|---------|
| 1. オリエンテーション | 2. 人間存在・遊び・学びと教育について | |
| 3. 教育の必要性と可能性 | 4. 目的行為としての教育ー教育の抑圧性ー | |
| 5. 歴史の中の教育目的 | 6. 教育内容の選択と組織化ー制度として学校ー | |
| 7. カリキュラムの類型 | 8. 学習指導要領の変遷 | |
| 9. 教育評価について | 10. 教育の限界 | |
| 11. さまざまな教育論と実践① | 12. さまざまな教育論と実践② | |
| 13. 教育を考えるヒント① | 14. 教育を考えるヒント② | 15. まとめ |

準備学習の内容

予習のあり方： ニュースや新聞などの教育・子ども・学校に関する記事に関心を示し、幅広く情報を得ておくこと。

児童館や子育て支援サークルなどの保育ボランティアなどたくさんの経験を積極的に積むこと。教育や子どものことなどについて書かれた岩波新書や中公新書などの新書本をなるべく多く読むこと。

学習のあり方： 教育者・保育者は子どもの育ちに責任があるということ、教育者・保育者である自分の言動が子どもに対し善悪交々の多大なる影響を与えること、を自覚すること。その上で、子ども自身が育っていくことに自分ができるのに関わっていくことができるのかを想定しながら、授業やグループワークに参加してください。

復習のあり方： 授業内容についての疑問点を整理し、ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解いてみること。

疑問や質問は授業中でも授業後でも必ずその時に解決する習慣をつけましょう。

成績評価

課題提出などを含む授業への参加度合（40%）、筆記試験（60%）をもとに総合的に評価する。すべて出席するのが原則です。遅刻・欠席は「参加度合」として不適切と判断します。健康管理や早めの行動を心がけてください。

テキスト

レジユメおよび資料を配布する。

参考文献

授業中に指示する。

科 目 名 : 教育課程論
単 位 (授 業 形 態) : 1 単 位 (講 義)
担 当 者 : 園 田 雪 恵 ・ 林 幹 士

授業の到達目標

部分保育は、一日の保育計画の中に位置づいている。一日の保育計画は、一週間・一ヶ月・一年間という短期ないし長期の保育計画に基づいて実施される。この講義では、保育課程および教育課程の目的・内容・計画について学ぶ。そして、子どもの心身の成長や発達に応じた具体的な保育課程・教育課程を作成していくことができることを目標とする。

授業の概要

テキストを用いながら、各回のテーマを中心に講義を行う。また、保育課程・教育課程を作成する。
なお、園田と林がリレーで講義を担当する。

全体の授業計画・内容

1. 保育の基本について
2. 保育課程・教育課程と指導計画
3. 幼稚園の理解
4. 保育所の理解
5. 指導計画の作成の基本とその方法
6. 幼児の特徴と指導計画
7. 保育の実践と評価
8. 保育課程・教育課程の作成

準備学習の内容

予習のあり方：ニュースや新聞等の保育・教育に関する記事に関心を示し、幅広く情報を得ておくこと。子どもにとって、よりよい保育計画・教育計画とは何かを日頃からさまざまな観点から考えておくこと。

復習のあり方：授業内容についての疑問点を整理していくこと。

成績評価

提出物（100%）により総合的に評価する。

テキスト

必要に応じて資料を配布する。

参考文献

適宜お知らせする。

科目名	: 保育内容総論
単位（授業形態）	: 1 単位(演習)
担当者	: 園田 雪恵

授業の到達目標

保育の5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)における内容や教育者の思想を振り返り、自分自身の保育実践と関連付け、包括的な学習を行う。また、習得した知識を生かして実践できるよう保育者としての基礎力を培う。

授業の概要

これまでの保育に関する学習内容を踏まえ、プリントや資料の事例から総合的に考察していく。

全体の授業計画・内容

1. 幼稚園・保育所・認定こども園の法規および保育内容
2. 遊びの中の保育内容5領域
3. 子どもの「健康」—食育について—
4. 子どもを取り巻く「人間関係」
5. 「環境」による保育
6. 子どもの「言葉」—ちょっと気になる子の事例—
7. 子どもの「表現」—感性に繋がる保育—
8. 個人発表

準備学習の内容

予習のあり方：現在子どもが抱えている問題に関心を持つようにすること。

学習のあり方：プリントや資料を配布するので、重要なポイントは保育者の基礎知識として覚えること。

復習のあり方：授業での学習内容を保育者としての基礎知識と捉え、いかに実践に生かしていくのか検討すること。

成績評価

提出物(100%)

テキスト

適宜プリント及び資料を配布する。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館

その他、資料は講義の中で紹介する。

科 目 名 : 教育方法論
単 位 (授 業 形 態) : 1 単 位 (講 義)
担 当 者 : 林 幹 士

授業の到達目標

教育の方法について、多様な角度から考える。また、教育に関する幅広い視野を養い、子どもの発達にとってよりよい教育のあり方を理解することができる。

授業の概要

教育の方法について、グループワークを通して、議論を行う。また、受講者自身の実践を、発表することを通して、実践事例から教育の方法について考えていく。

全体の授業計画・内容

1. 教育の方法について、考える際に大切なこと①
2. 教育の方法について、考える際に大切なこと②
3. 実践事例をいかに示すのか
4. 実践事例発表・検討①
5. 実践事例発表・検討②
6. 実践事例発表・検討③
7. 実践事例発表・検討④
8. まとめ

準備学習の内容

予習のあり方：自身の実践を記述し、まとめておく。自身の実践における課題を確認しておくこと。

復習のあり方：学んだことを意識して、日々の実践に取り入れていく。また、よりよい実践となるように考えていくこと。

成績評価

提出物（50%）、実践事例発表（50%）により総合的に評価する。

テキスト

授業中に資料を配布する。

参考文献

適宜お知らせする。

科 目 名 : 幼児理解の理論及び方法(教育相談を含む)
単 位 (授業形態) : 2単位(講義)
担 当 者 : 番匠明美

授業の到達目標

保育の現場は子ども・親・保育者といった人々がそれぞれ様々な出来事を体験していく“場”である。全てが意味あるものとして、一人一人の存在の奥深く根付いていくとき、子どもたちはころを自由にしてどんなに幼くとも“自分らしい”生き方を見つけていくことができる。そういったころの流れを支えていくかかわりを柱として、幼児期の子どもについての理解を深める。

授業の概要

1. 保育における今日の問題を捉えることから子どもを理解する視点を学ぶ。
2. 子どもの遊びや遊戯療法について保育の視点から学ぶ。
3. 心の表現を捉える方法を体験的に学ぶ。
4. 事例を通して問題の理解と治療的関わりを保育現場との連携から学ぶ。
5. 発達障害(保護者支援を含む)に関する理解を深め、具体的な関わりについて学ぶ。

全体の授業計画・内容

1. オリエンテーション～幼児期の子どもを理解するまなざし
2. 子どもの遊びについて
3. 遊戯療法～保育の視点から
4. 心の表現を捉える方法
5. 事例① 問題の理解
6. 事例② 治療的関わり
7. 発達障害についての理解と関わり
8. 保護者支援について 及びまとめ

準備学習の内容

予習のあり方：様々な場面で現在よく取り上げられる保育をテーマとした問題点に常に関心を向けておく。

学習のあり方：授業の内容を自分ならば子どもとどうかかわるかという視点で検討する。

復習のあり方：学んだ内容を実践しフィードバックすることにより自分なりの理解と方法を身に付ける。

成績評価

提出物 (70%)、受講態度(30%)

テキスト

特に指定せず、必要に応じて資料等を配布する。

参考文献

授業時に紹介する。